

農

とうがねの

業を

未来

へつなぐ



広報 とうがね

Public Information Togane

2025年(令和7年)10月号

東金市民憲章

わたくしたち東金市民は

1. 郷土を愛し、環境をととのえ、住みよいまちをつくりましょう。
1. 互いにいたわり、笑顔を忘れず、心ふれあうまちをつくりましょう。
1. からだをきたえ、誇りをもって働き、豊かなまちをつくりましょう。
1. きまりを守り、力をあわせて、明るいまちをつくりましょう。
1. 歴史を尊び、教養を深め、香り高い文化のまちをつくりましょう。

目次(主な内容)

- | ページ | |
|-----|------------------------------|
| 2 | 特集 とうがねの農業を未来へつなぐ |
| 8 | ホットもっとニュース |
| 10 | 2026 東金・九十九里波乗りハーフマラソンランナー募集 |
| 11 | ときスポ2025 |

ピックアップ情報

- | | |
|----|---------------------------|
| 12 | イベントの秋！スポーツの秋！ |
| 16 | 保育所・認定こども園・小規模保育・幼稚園入園児募集 |
| 18 | 国勢調査の回答は10月8日(水)までに |

とうがねインフォメーション

- | | |
|----|--------------------|
| 21 | 各種情報／子育て・保健・相談 ガイド |
| 32 | 街かどアイドル／おいしいレシピ |

記事の見方

- ・市外局番の記載がないものは0475です
- ・ID番号がある記事は、ID検索できます

手順①市ホームページ(<https://www.city.togane.chiba.jp>)



市ホームページ

②検索窓の近くから「ID検索」で番号を入力

Google 検索

市役所窓口

開庁時間 月～金曜日(祝休日、12月29日～1月3日を除く)
午前8時30分～午後5時15分

※休日窓口や市の施設の休館日は21ページに掲載。

人口と世帯

人口／56,296人(-101) 世帯／28,426世帯(-38)

男性／28,331人(-85) 女性／27,965人(-16)

※令和7年9月1日現在 ()は前月比

農業はやりがいのある魅力的な仕事です。

しかし、決して楽な仕事ではありません。資金のこと、農地のこと、知識や技術のこと、家族の理解と協力などさまざまな課題があります。

現在の農業を取り巻く情勢は、高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加といった問題が山積しています。

とうがねの農業も例外ではなく、地域の農業と農地を、どのように次の世代に引き継いでいくか、今、地域の方々と共に探っています。

一方、とうがねでの農業にやりがいを感じ、新たに從事する方もいます。

皆さん「就農^{しゅのう}」という言葉をご存じですか。

農業を仕事にすることを就農といいます。個人で就農する場合、多額の費用がかかりますが、自分のやりたい農業ができます。また、農業法人への就職も、就農の形の一つです。

今回の特集では、市内で新たに農業を始めた皆さんに、そのきっかけや魅力などについて、話を伺いました。さらに、就農を目指す方向けの制度も紹介します。

そして、食を支える農業の未来は、農家の方だけではなく、私たち一人一人が考えていかなければいけません。市内で頑張る農業者を知り、地元の農産物を食卓に取り入れる地産地消や、贈り物に東金産を選ぶことも、未来の農業を応援する大切な行動です。

地域の農業を次の世代につないでいくために、挑戦を続ける農家の皆さんを応援しながら、私たちにできることを一緒に考えてみませんか。

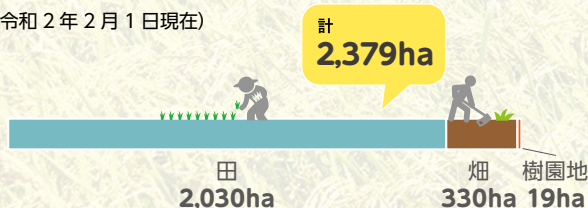
農家数の推移

(各年 2月1日現在、単位：戸)

年	総農家数	販売農家	自給的農家
平成12年	2,299	1,960	339
17年	1,929	1,526	403
22年	1,739	1,277	462
27年	1,517	1,025	492
令和2年	1,266	790	476

農業（経営耕地種類別面積）の構成

(令和2年2月1日現在)



資料：東金市統計書（令和6年版）



東金の名産を作り まちおこしをしたい

旨み発酵ファーム ^{た か ど ま さ ひ こ} 高戸 政彦 さん

さつまいもやんにんにくを生産
冷製焼き芋は、大阪・関西万博にも出展

ゼロからの出発

右も左も分からない中、オンラインで勉強を始め、にんにくの作付けから始めました。

土づくりは道半ばでしたが、経験が大事だと思い、にんにくの種を秋に植え、翌夏に初めての収穫を行いました。農業の大変さを痛感する一方で、収穫の喜びと自分で育てたにんにくのおいしさに感動しました。

そして令和3年11月、仲間と法人を立ち上げ、本格的に農業経営をスタート。現在にはにんにくとさつまいもを生産しています。

就農を志した

2つのきっかけ

就農する前は鍼灸師でした。そこで直面した、がんにより29歳の若さで亡くなった友人、父のがん（現在は寛解間近）、がんの患者さま。「自分にできることは…？」と無力感でいっぱいになりました。自問自答を繰り返した結果、自分が納得できる食べ物を世の中の人に提供したいと思い、野菜づくりを志しました。

もう一つの理由は、誰もが働ける環境を作りたいという思いです。雇用を生み、さらに、そこで出来た作物を食べて健康になる。全てが良い循環になればという願いもありました。

不安を超える熱い思い

32歳の時に勉強を始め、怖いもの知らずで志だけで突っ走ってきました。就農後は、きちんと作れるのか、売れるのか、収入になるのかなど…。不安はありますし、今後消えないと思います。ただ、友人の死を経験し、限られた命の時間を知った今、本気で志したことを全力で取り組めることはとても幸せなことだと思います。

農業ならではの醍醐味

正直に言うと、農業は思い描いていたイメージとは全然違うことだらけです。食物（生き物）を取り扱うことの大変さ、自然との闘い、収穫して終わりではないこと。それに、人間は食べなければ生きていけないのに、軽く扱われてしまうことがほとんどです。機械も高く、お金もたくさんかかります。

ただ、いつか花が咲くと思っています。作ったものは自信を持って「おいしい」と言えます。ただの焼き芋なのに、「他とは違う！」とリピートしてくださるファンのお客さまもいます。

また、農業の担い手も減る中、地域の方々から応援の温かい言葉をいただいたり、機械をお借りしたりと、たくさん助けていただいています。お礼もできず申し訳なく思うほどです。

自然や地域の方々と共に、忘れかけている人間本来の力を養えるのは、農業ならではの醍醐味だと思います。

伝統を復活

まちおこしをしたい

「東金」と聞くと皆さんは何を思い浮かべますか。

私の主要な農地は、下武射田にあり、さつまいもを生産しています。千葉県では成田市や香取市などがあるのですが、武射田の芋はかつて「武射田芋」と呼ばれ、人々の食を支え、芋の名産地として知られていたそうです。しかし、時代の流れとともに、担い手が減り、伝統は途絶えてしまいました。地域の方が「この土地の歴史を、未来へつなごう」と懐かしそうにお話する姿を見て、次の世代へとバトンを渡していくことも私の使命になりました。実現には、独自の品質、ブランド化、独自販路による売り上げの最大化から雇用の創出は必要不可欠です。

東金の魅力を伝え、まちおこしを実現する。それがお世話になった方々への恩返しかなと思っています。



土づくりからこだわり

だから私は

東金を選んだ

東金で生まれ育ったわけでも、両親が農家だったわけでもありません。農業を始めるにあたり、すごく差を感じました。畑もない。農機具を置く倉庫や納屋もない。収穫後の保管場所もない。当然お金に余裕もない。もし、就農する方にアドバイスできるなら一番重要なことは「志があること」「諦めないこと」かなと思います。

始めは農地を探すため、県内の色々な市を訪ねましたね。東金を選んだ最大の決め手は、私の情熱を市役所の方に一番感じてもらえたからです。今でも有益な情報を提供してくださり、とても助かっています。就農に当たり、行政の考え方もとても重要になりますので、これから始める方は、「ここだ」と思った場所で全力で取り組んでいた方がいいです。一緒に農業を盛り上げていければ嬉しいです。



仲間がいるから、不安も困難も乗り越えられる



大阪・関西万博への出展時の様子



PICK UP

就農者を支援する制度

一 経営開始資金

新たに経営を開始する方に、資金を助成します。

対象▼経営開始時に49歳以下の認定新規就農者

交付額▼年150万円×最長3年間
※交付には要件があります。詳しくはお問い合わせください。

一 経営発展支援事業

認定新規就農者の経営発展のため、機械・施設などの導入を支援します。

対象▼

①就農時の年齢が原則49歳以下の認定新規就農者（親元就農者Ⅱ親の経営に従事後、5年以内に継承）

②事業実施前年度または事業実施年度中に農業経営を開始し、事業実施年度中に要件を満たす独立・自営就農をしている方

補助率▼3/4以内（上限1千万円）
経営開始資金の対象者は、500万円

※夫婦で開始する場合や複数で法人を設立する場合は異なります。

対象経費▼機械（軽トラを除く）、施設、家畜導入、果樹・茶の新植・改植 機械などのリース料などの初期投資的な経費

※補助には要件があります。詳しくはお問い合わせください。

問 農政課

☎(50)1137

東金のいちごを盛り上げたい



東金の地へ移住

埼玉で2年間、山武市で1年間研修を受け、令和元年4月から東金で独立し、就農しました。

子どもが生まれ、食に興味を持ったのが、就農を考えたきっかけですね。当時は、ものづくりが好きで、埼玉で吹きガラス職人として働いていました。工房を構え、自分で食べる分の食料を自給しながら残りの時間を仕事などを行う半農半Xのライフスタイルを模索していました。

結局はどちらも中途半端になると思い、ものづくりの原点である農業を生業にするため、就農活動を開始しました。

紆余曲折を経て、上の子どもが小学校に入学するタイミングで東金に移住。就農するに当たり、いちごを選択しました。

お客さまの声が

モチベーション

始めは不安だらけでした。ですが、全て自分の責任でやれるのと、自分で作ったものがダイレクトに評価される環境への期待の方が大きかったですね。

直売がメインなのでお客さまの率直な評価が直接聞ける。それが仕事のモチベーションとなる。それは農業、ひいてはものづくりの醍醐味であると思います。

東金のいちごを盛り上げていくのは



もちろんですが、いちご以外の農作物もポテンシャルが高いものが多いので、さまざまな生産者と協力できればと思っています。

自分だけのやりがい

資材や人件費の高騰など、農業を取り巻く環境は年々厳しくなっています。その割に価格は低迷しており、正直大変です。ですが、まだまだやり方はいろいろあると思います。

就農してから、植物生理や、経営者として簿記の知識は必要だと感じました。就農するのは意外に簡単ですが、その後続けていくのが大変です。就農を考えている方は、できるだけ準備することをお勧めします。

厳しいこともあります。それ以上にお客さまに喜んでもらえた時、おいしいと言ってもらえた時は農業をやった良かったと思えます。自分はそこにやりがいを感じています。

自分にとってのやりがいを見つければ続けていけると思います。

PICK UP

とうがねにある農業大学校で農業技術を学ぶ

東金市には、県内唯一の農業大学校があります。大学校で行っている就農を目指す方向けの研修を紹介します。

農業者養成研修

3カ月、6カ月、1年コースがあります。農業経営者に必要な専門知識や技能について、農場実習や講義、校外学習などで栽培から販売まで学べます。今年は、20代〜50代までの幅広い方が学んでいます。

対象▼これから農業を目指す方や農業を始めていて、技術を習得したい方

就農準備講座

働きながら農業の基礎を学べます。とき▼5〜6月の土曜日(計7日間)対象▼将来、県内で職業として農業に取り組もうとしている方

※来年度の申込受付は、令和8年1月(就農準備講座は2月)を予定しています。詳細は12月頃にホームページに掲載予定です。

問 農業大学校

☎(52)5121



▲農業大学校ホームページ

料理やお菓子で
野菜たちを届けたい

あべ たくみ 阿部 巧さん・ひかるさん

令和5年11月に就農
小規模多品種（にんじん、ピーズなど）を生産
野菜を加工したお菓子なども手がける



夫婦二人三脚での出発

二人とも、料理に携わっていく中で、料理人として自分たちが調理する、日々食べる食材は自分自身で作りたいという思いから、就農を志しました。

巧さん

北海道の大学の農学部で学び、自然の中での仕事や農業の可能性に魅力を感じていたことも大きかったです。

ひかるさん

管理栄養士として進む道を模索していた頃からの、病気になる前の予防（予防医学）、特に人の健康の土台になる食事を作りたい、という気持ちが根っこにあります。また、就農するなら生まれ育った東金で、という希望もありました。

野菜作りのゴールは

料理やお菓子

就農という新しい挑戦には、不安だけでなく、楽しみな気持ちも大きかったです。就農前からお菓子の製造販売を行っていたので、販路が少しあったことも、プレッシャーが少なかった理由かもしれません。

作ったことのない作物にも挑戦しており、日々、大変なこともあるけれど、やはり楽しいと感じます。

何より、時間をかけて育てた野菜は本場においしいです。どんな料理やお菓子を作ろうかと考えながら作付計画を作るときは、夢が膨らみますね。

作物づくりから、調理（加工）まで

を経験すると、食材の尊さがより感じられる気がしています。

また、想像よりたくさんの方が、自分たちのストーリーへの興味や、農業への関心を持ってくださることが嬉しいです。お菓子は、道の駅みりの郷東金や産業祭でも販売しています。

子どもたちの

きつかけづくりにも

可能な限り環境負荷の少ない営農をしていきたいです。カフェで出る残渣や、使わなかった資源の堆肥化もしたいと考えており、地域の飲食店などとも連携が取れたらいいと思います。

また、子どもたちや学生の皆さんが農業や料理に触れるきつかけになるような体験や場所を作ったり、料理教室なども開催できたらと思っています。

一緒に農業を

大変と言われることも多い職業ですが、実際にやってみると、楽しいと感じることが多く、とてもやりがいのある仕事だと思っています。

ぜひ、同じ地域

で一緒に農業を盛り上げていけたら嬉しいですね。



PICK UP

有機野菜の栽培講習会

野菜を育てる技術を基礎から学べる栽培講習会を行っています。家庭菜園を始めた方、上手に作りたい方、将来的に直売所に出荷できるような生産者を目指す方にもおすすめです。

問 農政課

☎(50)1137



PICK UP

地元の農産物は
こんな場所でも買えます

新鮮な地元の農産物は、スーパーの特設売場やJA緑の風、道の駅みりの郷東金などで購入できます。

今夜の献立に地元産、旬の農産物を一品足してみるのはいかがでしょうか。

